

卷末資料

協議会・幹事会 名簿

用語集



卷末資料

▶ 協議会・幹事会 名簿

協議会

学 識	会 長	柿本 竜治 (熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授)
	副会長	羽藤 英二 (東京大学大学院工学系研究科教授)
	顧 問	溝上 章志 (熊本学園大学経済学部教授)
国	委 員	円山 琢也 (熊本大学大学院先端科学研究部教授)
		国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長
		国土交通省九州運輸局熊本運輸支局長
熊本県企画振興部交通政策・統計局長		
熊本県土木部道路都市局長		
熊本県警察本部交通部長		
熊本市		熊本市政策局長
熊本市都市建設局長		
熊本市交通事業管理者		
関係団体		九州旅客鉄道株式会社熊本支社副支社長
	一般社団法人熊本県バス協会長	
	熊本経済同友会 (まちづくり委員会委員長)	
	熊本商工会議所 常議員	

幹事会

学 識	幹事長	円山 琢也 (熊本大学大学院先端科学研究部教授)
	幹 事	本間 里見 (熊本大学大学院先端科学研究部教授)
		小葉 武史 (熊本学園大学経済学部教授)
		星野 裕司 (熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授)
橋本 淳也 (熊本高等専門学校准教授)		
国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所計画課長		
国土交通省九州運輸局熊本運輸支局首席運輸企画専門官		
熊本県企画振興部交通政策・統計局交通政策課長		
熊本県土木部道路都市局道路整備課長		
熊本県土木部道路都市局都市計画課長		
熊本県警察本部交通部交通規制課長		
熊本市	熊本市政策局総合政策部長	
	熊本市都市建設局都市政策部長	
	熊本市都市建設局交通政策部長	
	熊本市都市建設局土木部長	
市町村	熊本市交通局次長	
	菊池市建設部都市整備課長	
	宇土市建設部都市整備課長	
	宇城市土木部都市整備課長	
	合志市市長公室企画課長	
	大津町総務部総合政策課長	
	菊陽町総務部総合政策課長	
	西原村総合政策課長	
	御船町建設課長	
	嘉島町企画情報課長	
	益城町企画財政課長	
	甲佐町企画課長	
	関係団体	九州旅客鉄道株式会社熊本支社営業運輸課長
		一般社団法人熊本県バス協会乗合バス業務委員会委員長
熊本経済同友会事務局長		
熊本商工会議所 理事 事務局長		

用語集

ア	朝ピーク率	1日の中で「一番混む時間帯(朝ラッシュ時)」の利用者数が、全体(1日あたり)の利用者数に対してどのくらいの割合を占めているか、を意味する。
	インフラ	"インフラストラクチャー (Infrastructure)"の略で、道路・バス停・駅・水道・電気など、生活を支える"基盤となる設備"のこと。
	ウォークابل	「歩きやすい」「歩きたくなる」といった意味で、人中心のまちづくりや空間を指す。「歩く」を意味する「walk」と「できる」の「able」を組合せた造語。
	エコ・コンパクトな都市づくり	環境と調和し、コンパクトに都市機能や居住を集約することで、持続可能で活力ある都市を目指す都市づくりの考え方。
	オフピーク通勤	朝の通勤ラッシュ(混雑のピーク時間)を避けて通勤すること。つまり、多くの人が一斉に動く時間をずらして出勤すること。
カ	カーシェア	自分で車を所有しなくても、必要なときだけ"みんなで車を共同利用する"サービス。買い物や送り迎えなど、短時間だけ使いたいときに便利です。
	キスアンドライド	「ちょっとだけ車を停めて、人を降ろす(または迎えに行く)」こと。この"送る(キス)→降ろす→すぐ発車(ライド)"という流れから、アメリカなどで「Kiss and Ride」と呼ばれるようになった。
	居住誘導区域	都市計画の中で、今後も人が住み続けるように誘導(促す)エリアとして定められた区域のこと。国の「立地適正化計画制度(2014年:都市再生特別措置法改正)」に基づく考え方で、人口減少時代に、まちをコンパクトに保つための仕組みである。
	公共交通優先信号(PTPS)	(PTPS:Public Transportation Priority System)バスや路面電車などの公共交通車両が、信号でスムーズに通れるように制御する交通システムのこと。信号機と車両が通信して、バスの遅れを減らし、定時運行を助ける仕組み。
	交通モード	自動車、バス、鉄軌道、自転車、徒歩などの交通手段のこと。
	交通/運輸連合	複数の交通事業者(バス・鉄道・タクシーなど)や行政が、地域全体の交通を一体的に運営・調整するために設ける仕組みのことで、特にドイツやフランスで成熟した制度。交通事業者は、路線やタイヤの調整により運行が効率化し、行政支援のもとで安定した経営が可能になる。利用者は、バス会社が違って共通ICカードや定期券で乗り継ぎができ、使いやすく信頼できる交通になる。
	コミュニティ交通	公共交通が不便な地域において、生活の利便性向上や交通弱者の移動手段確保を目的とする交通手段のこと。
サ	サイクルアンドライド	自転車で最寄りの駅やバス停まで行き、そこから電車やバスなどの公共交通に乗り換える移動方法のこと。
	SUMP(サンプ)	(SUMP:Sustainable Urban Mobility Plans)持続可能な都市モビリティ計画。都市の移動(モビリティ)を、環境や安全、暮らしやすさなどの観点から総合的に改善していくための、新しい都市交通の考え方。データにもとづく目標設定、都市圏全体を視野に入れた統合的な検討、住民や関係者が関わる仕組みづくり、モニタリングによる継続的な見直しなどが特徴。
	シェアサイクル	まちの複数のポートと言われる場所にある専用の自転車を、好きな場所で借りて、好きな場所に返せるサービス。
	主要渋滞箇所	最新の交通データや地域の利用者の実感・意見をもとに、渋滞対策協議会が特定した、地域全体として渋滞を実感している箇所を指す。「渋滞が多発・速度低下が著しい」区間で、例えば混雑時(朝・夕ラッシュ)に平均旅行速度が20km/h以下になるような区間も、選定の対象。また「交通量・渋滞損失時間(人・時間)など客観データ」+「道路利用者・関係者からの意見(パブリックコメントなど)」を併せて抽出される。
	上下分離方式	鉄道や路面電車などの公共交通で、「施設を所有する主体」と「運行を行う主体」を分けて運営する仕組みのこと。鉄道や路面電車などの運営で、線路や駅などの設備は行政などが持ち、運転やサービスは交通事業者が行う仕組み。費用を分担して、地域の交通を守りやすくする考え方である。
	シンクタンク	専門家が集まり、調査・分析・提案を行う"知恵の研究所"のような組織。交通やまちづくりについて、データ分析を行い、その結果に基づいた提案を行う。
	スパイラル	ある出来事が次の出来事につながり、その流れがくり返されながら段階的に変化していく様子を表す言葉。例えば、交通の便利さが上がる→利用者が増える→サービスが充実する…のような好循環を「正のスパイラル」、悪循環を「負のスパイラル」と言う。
	生成原単位(グロス・ネット)	1日あたりの移動回数(トリップ数)のことで、人口の変化とは別に、個人または世帯あたりでどれだけ移動するかを示す指標。

用語集

タ	代表交通手段	1つのトリップでいくつかの交通手段を乗り換えた場合、その中の主な交通手段を代表交通手段という。交通手段の優先順位は、鉄道、バス、自動車、二輪車、徒歩の順としている。
	デマンドバス・タクシー	予約があるときだけ走る“呼べるバス・タクシー”のこと。路線が固定されておらず、利用者の希望に合わせて近くまで迎えに来たり、目的地付近まで運ぶ。公共交通の空白地域などで運行。
	都市計画区域	自然的・社会的条件、人口、産業、土地利用、交通量等の現況とその推移を考慮して、一体の都市として、総合的に整備し、開発し及び保全する必要がある区域として指定された区域。
	都市計画道路	都市における円滑な移動や沿道アクセスを確保する交通機能のほか、都市防災機能、都市環境形成機能、収容空間機能、市街地形成機能を有し、安全で快適な都市生活と機能的な都市活動に寄与することを目的として都市計画に定める道路のこと。
	トリップ	人がある地点から他の地点へ目的を持って移動すること。トリップを交通目的の内容により区分するとき目的トリップと称し、交通手段により区分するとき手段トリップと呼ぶ。
ハ	パークアンドライド	「郊外の駐車場に自家用車を止め、そこから公共交通(鉄道・バスなど)に乗り換えて都心へ向かう仕組み」のこと。
	バスロケーションシステム	走行中のバスの現在位置や運行状況をリアルタイムで把握・配信するシステムのこと。利用者・運行管理者の双方にメリットがあり、全国の多くの自治体・バス事業者で導入が進んでいる。熊本都市圏では「バスきたくまさん(https://km.bus-vision.jp/kumamoto/view/searchStop.html)」が該当する。
	バリアフリー	高齢者や障がい者の行動・生活上の障害を取り除くための施策もしくは取り除いた環境のこと。バスや鉄道の車両、歩道等において、段差、階段、出入口、通路などが配慮の対象となる。
	フィーダーバス・路線	鉄道や幹線バスなどの幹線的な公共交通機関との乗り継ぎを確保するため、住宅地や郊外部などから駅・主要バス停までのアクセスを担う支線系統のバス・路線をいう。
マ	MaaS (マース)	(MaaS: Mobility as a Service) 公共交通機関やタクシー、カーシェア、シェアサイクルなどの多様な移動サービスを、ITを活用してまとめて検索、予約、決済できるサービス。
	モニタリング	まちの交通状況や利用者数などを、定期的に“見える化して確認する”こと。良い・悪いの変化を早めにつかみ、必要な改善につなげるために行います。
	モビリティ	人や物が移動すること、またはその移動を支える交通手段・サービス全般をいう。
	モビリティハブ	バス・電車・自転車・タクシーなど、いくつかの移動手段を“ひとつの場所で乗り換えやすくした拠点”。駅前広場や地域の中心などに整備し、便利でスムーズな移動を実現します。
ラ	立地適正化計画	人口減少・高齢化社会に対応して、まちのコンパクト化を進めるための都市計画。2014年(平成26年)の都市再生特別措置法改正により制度化され、全国の市町村が策定できる。熊本都市圏では熊本市、菊池市、宇城市、益城町が策定済み。(2025年(令和7年)3月末時点)
	ルートマネジメント	既存のインフラ(道路)を有効活用するため、交通需要の分散を図るソフト施策の一つ。

